

(別紙2) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200549		
法人名	医療法人 海洋会		
事業所名	グループホーム ほんわかハウス(本館1階)		
所在地	福岡市西区千里字中原49-1		
自己評価作成日	平成22年6月15日	評価結果確定日	平成22年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ほんわかハウスの主は入居者お一人お一人であり、入居者の意思及び人格が尊重されお一人お一人のペースや希望に添って自由にありのままに暮らして頂いています。
 ・地域や家族との結びつきを重視し、地域に開かれたホームです。
 ・季節ごとに行事を計画し、季節感を味わって頂く事や日々の暮らしに自信と喜びを持って暮らすことが出来るよう支援しています。
 ・入居者の能力が最大限に生かされ、その方にあった生活を送っていただくと共に生活の中に役割を持って頂きながら暮らして頂いています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

精神科や脳神経外科を設置する母体クリニックが、老健に併設して10年前に開設した事業所である。3ユニットと全体で見ると規模が大きく、歴史もあるため、認知症高齢者への個別支援や看取り、成年後見制度の活用等の支援についても実績がある。口コミで評判を聴いた家族が直接問い合わせでの見学や利用が多いのも特徴的である。認知症症状や医療のニーズの高い利用者が多く、医療、食事の提供等については母体クリニック、併設老健と連携して柔軟に対応している。本年は、「ほんわかハウス新館」と合同でのあじさい見物や、運営推進会議での非常災害時の協力体制への取組み等がみられた。今後とも法人全体の相互連携を活かすと同時に、地域や行政、その他の社会資源と連携した展開が期待できる事業所である。

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己評価および外部評価票

ユニット名: 本館1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたホームとしての理念を作成しており、毎月行われている全職員参加のミーティング時に理念を唱和し、理念に沿ったケア及び地域交流が図れているかを確認している。	開設当初より、地域に開かれたホームを目指し、利用者一人ひとりの尊厳や意思、ペース等を尊重しながら支援する事を理念としている。館内の掲示及び職員会議時の唱和等を行い、日々の支援を通じて理念の実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議や夏祭り、節句祭りなどに地域の方をお招きし入居者・ご家族・職員との間で交流を図っている。また近隣の高校からは年に数回定期演奏会等で行き来する関係である。	ホームや地域の行事を中心に地域住民との交流の機会を確保している。保育園との往来や高校の吹奏楽部による演奏会、地域高齢者にむけてのバスハイク、老人会への講師派遣等、法人全体で幅広い世代との交流の機会を確保している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、医療や介護の情報を発信したり、老人会からの要望があるため勉強会を開催したりしている。また地域貢献の一環として、バスハイクの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	およそ2ヶ月に1回の頻度で会議を開催している。議題として現状報告や行事日程、ケアの実践などの報告を行っている。会議での意見や提案に関しては、議事録を作成後全職員に回覧を行うと共に、ミーティング時などにも内容に触れサービスの向上のために実践している。	民生委員、いきいきセンター職員、家族、利用者、自治会長の参加のもと2ヵ月ごとに開催している。会議では、事業所と利用者の近況報告、研修活動の紹介、懸案事項の討議、いきいきセンター職員への質疑応答や勉強会等、活発な情報提供や意見交換がなされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険証の更新申請や介護報酬の請求に関してなど理解し得ない事柄があった場合、電話やFAXだけでなく、役所に出向いて相談するようにしている。	運営推進会議へのいきいきセンター職員の参加を通じて、行政との連絡・連携を図る取組みがある。また、市主催の研修会への参加や運営上の疑問点などについての相談等、日常的に行政との連携を図る取組みがある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を定期的に行っている。その中で「身体拘束をしないことの意義」について周知徹底を図っている。具体的には、ほんわかハウスの定める「身体拘束廃止委員会」にて毎月話し合いを行っている。	毎年の研修計画に位置付け、日常的なケアの中で、スピーチロックや行動制限等、身体拘束にあたるか否かについて話し合う機会を設け、職員全体で啓発する機会を確保している。この過程を経て、点滴時は職員一人が見守りにつく等の支援が見られた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会を開催している。法律の中身だけでなく、日々のケアの中でこういった事が虐待につながりまた虐待になるのかを学んでいる。また入浴や更衣時には全身の様子をしっかりと確認するように努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を開催したり、外部研修に参加している。昨年は、地域包括支援センターとの協働で、地域住民、ご家族、職員を対象に権利擁護研修を開催した。また制度の利用が必要な方や情報を知りたい方へはその都度支援している。	外部研修への参加と同時に、法人全体研修やホーム内での勉強会を通じて、制度の理解と普及に努めている。本年は、運営推進会議や家族会時に、制度の概要と利用手順等について、いきいきセンター職員が説明を行う等の成果が見られた。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり、利用者、ご家族の不安が無くなるまでお話を伺った後に、契約についての説明を行い理解を頂いている。事前に想定されることや、ハウスでの生活の様子など事例を交えてお話をさせて頂くことで安心感を得て頂いている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、不満や意見また要望などを伺える機会を設けている。また日常の来訪時にも職員から一声かける配慮を行っている。法人内には苦情相談窓口を設けている。	運営推進会議、面談等を通じて、思いや意見を汲み取れるように努めている。出された意見や苦情、不満に関しては、内容に応じてその場での回答や、職員会議等での周知検討、協議を行いサービスの質の向上に活かすなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全員参加のミーティング時や、個別に時間を設けられる機会に現場職員の意見を聞き、運営に反映させることが出来るよう努めている。	日常的な会話の中でも、意見やアイデアが言いやすい雰囲気作りに配慮している。毎月の職員会議や適宜の個人面談にて、意見や提案を聞き、運営に反映させている。この過程を経て、シフト時間等についての改定事例が見られた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、昇給も含め定期的に見直しを行う機会を設けている。勤務時間や勤務形態に関して現場からの意見があった場合には、現場の状況に応じて環境整備を行っている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用において性別、年齢、経験等での選別は行っていない。配属に関しては、本人の個性や配属先の状況に応じて行っている。また現職の職員に関しても、一人一人の個性や能力に応じた役割を提供し、仕事にやりがいや達成感を感じる事が出来る職場環境作りに努めている。	職員採用においては、原則としてヘルパー2級取得者を対象とし、年齢や性別、経験の有無等の制限は設けず、ホーム理念への共感や人間性等を重視し、3ヶ月の試用期間を経て本採用としている。就職後は、資格取得やプライベートの充実に向けて、定時退社や勤務調整等に努めている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権啓発週間に合わせて講演会や研修に参加している。また人権啓発に関する資料や、人尊協たよりなどの広報誌など内容に応じて回覧している。研修に参加した職員へは、報告発表の機会を設けている。	地域の人権学習会へ管理者、職員が交代で参加している。加えて、事業所内でも受講報告会を開催するなど、高齢者や福祉に限らず、幅広いテーマにおいての人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に関しては、現状に即した形で年間計画を立て、職員一人一人にあった研修を実施している。また認知症実践者研修やリーダー研修、その他GH協議会の研修などにも経験や能力に応じた形で研修参加が出来るよう支援している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	福岡県高齢者GH協議会の活動を通じ、近隣の同業者と持ち回りで勉強会を開催したり、情報交換を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困ること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人、家族との面談やホームの見学をおこなっている。入居前の生活をもとに継続した生活環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時に不安や要望等を伺う機会を設けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほんわかハウス利用だけでなくニーズを把握したうえで適切なサービスの紹介を行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや洗濯等の家事仕事を提供している。又、自ら進んで行える環境づくりに努めている。お互いに支え合う関係作りに配慮しながら支援している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人からの要望、状況の変化等あった際、家族に報告すると共に今後のケアに反映している。家族の協力が重要であることをご理解頂き、共に支え合える関係を深めている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が行えない場合には、関係が途切れないよう本人に代わって連絡を取っている。また写真等を用いて働きかけをおこなっている	利用者が継続してきた趣味活動、習慣等を通じて、馴染みの人達と交流する機会が保てるように支援している。理美容室の利用等は家族と協力して個別支援し、ホームの中では、書道等の趣味や新聞を読む等、生活習慣を継続出来る様に支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが必要に応じて間に入り利用者の橋渡しをしている。またその場の状況に応じ対応できるよう心掛けている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙のやり取りや来訪がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からご本人の思いを受け止め反映している。スタッフの思い入れが強くなりやすい為ミーティング等で協議し常に確認している。	センター方式を採用し、利用前の情報収集と日々のかかわりを通じて、利用者一人ひとりの希望や家族の意向の把握に努めている。カンファレンスにて職員全員で情報提供や周知を行い、介護計画書へ反映させ、思いや意向に沿って支援している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報を得ている。又、会話の中からの情報を得てデータベース化し、把握に努め不足している情報の収集をおこなっている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや生活記録に残すなど、全スタッフ間で共有している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで課題や必要性を話し合い、ご本人、家族とも相談する機会を設けニーズに合った介護計画作成に努めている。	毎月のカンファレンスにて、利用者全員の心身状況、支援手順の周知や確認を行い、記録している。定期的なモニタリングを行い、6ヶ月毎の介護計画の見直しや状態変化時も、同様の過程を経て、現状に即した介護計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残しスタッフ間で共有している。ミーティングや個別のカンファレンスで方向性を見つけ実践している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の施設や協力機関と連携をとり必要な方へニーズに合った支援を行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受入れや運営推進会議を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への連絡、相談を医療連携日報を用い密に行っている。必要に応じて他科受診を行っている。	契約時に医療・受診等について説明し、利用者・家族が入居後の主治医を選択している。また、協力医は認知症の専門医でもあり、往診も実施している。歯科医師の定期検診等も含めて、各医療機関とも連携をとりながら適切に支援している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力機関の看護師と連携を図り、状況の変化に応じて相談・対応している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より担当医、看護師と連絡を取り早期に退院できるよう努めている。また入院生活において必要な情報の提供や物品の準備を行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と面談、又、節目毎に面談し意向を確認している。ユニット内で「できること」「できないこと」を見極め医療機関とも連携しながら支援を行っている。	重度化や看取りについては医療と連携しながら、可能なかぎり対応する方針を契約時に説明している。身体状況に応じて、段階的に主治医や家族、関係者で話し合いの機会を確保し、関係者全員で共有する支援体制がある。この過程を経て、看取りの事例が見られた。	重度化も含めて、残された人生に利用者が望むこと、こうありたいと願うことを把握し、日々の支援に活かしていくことは、利用者本位のサービス提供において重要な支援であると思われます。今後の取組みに期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やミーティング研修等の参加で身に付け実践できるよう努めている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所において年2回消火・避難訓練を行っている。関係機関、地域の住民の方に訓練を見て頂きアドバイスを受けている。	年2回、避難・消防訓練を実施している。本年度は運営推進会議時に建物全体で避難経路の確認や避難器具の使用法、避難方法や手順等についてデモンストレーションを実施しながら、活発な意見交換が行われ、地域との協力体制づくりについての働きかけが見られた。	老健の併設と3ユニットを抱える貴事業所の場合、非常災害時等における相互の連携体制の強化は、非常に重要な意味を持つと思われます。地域への働きかけに加えて、更なる連携にむけた今後の取組みを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声の掛け方や、周囲への配慮に心掛けている。記録類は専用の棚で管理している。	プライバシーや人格の尊重について、研修や勉強会、その都度の教育指導が図られている。個人情報保護についても規程を設け、研修等で意識向上を図り、個人記録等の一括管理や漏洩の防止に努めるなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらで決めるのではなく選択肢を設ける等し、ご本人の希望を最大限に実現できるよう努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の視点に立ち、ご本人のペースにあったケアを心掛け実践している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容サービスがあることを伝え、希望の際に予約している。また必要に応じ近所の衣料店にも出掛けている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の好みを把握し、時に出前や外食に出掛けている。普段では野菜切り等、活躍できる場の提供を行っている。	調理はユニット毎に職員と利用者が協力することを原則とし、利用者の介護度に応じて、併設老健の厨房と連携するなど柔軟に対応している。ミキサー食等への対応や利用者一人ひとりのペースを尊重した対応等、ゆっくりかつ安全に食事を楽しめるように支援している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた量を提供している。食欲が無いときや摂取量の少ないときは補食の提供を行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	最低でも夕食後、臥床前はおこなっている。拒否が強いときはうがいをおこなっている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用して個別の排泄パターンを把握し、失敗をできるだけ少なく出来るよう努めている。サインを見逃さない工夫をしている。	利用者毎の排泄パターンや介助方法の手順書を作成し、介護計画書に反映させ自立にむけて支援している。この過程を経て、オムツ使用から、座位での排泄等の自立支援が見られた。また、介助時には、利用者間の尊厳やプライバシーにも十分配慮するように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず水分や食事等に配慮しながら便秘予防に努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出勤人数によっては希望に添えないこともあるが、スタッフからの声掛けや希望に多く応えられるよう努めている。	毎日入浴できる準備を整えている。状況に応じて併設する老健の機械浴を使用する予定である。入浴を好まれない方や身体状況により入浴できない場合でも、タイミングを見計らっての声掛けや清拭、シャワー浴、足浴等工夫しながら定期的な清潔保持の機会を確保している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望、タイミングや、様子により、いつでも休めるよう寝具や就寝環境の整備に努めている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ガイドブック等で確認し、個別に処方箋を作成している。服薬マニュアルに添い支援、症状の変化には記録、申し送りして把握し医療機関と連携している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	刺し子や食器洗い、散歩等生活歴を活かして活動できる場を提供している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添えないこともあるが、数日中に調整できるよう努めている。遠方の外出の際は家族にも相談し実現できるよう努めている。	ドライブや野球観戦、毎月の行事や外食など、定期的及び随時に外出している。また、同法人の他のグループホームとも、合同でアジサイ見学に行くなど、他の利用者、家族とも交流の機会を持てるように連携しながら支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じ使えるようにしているが、清算、管理はスタッフでおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	働きかけは少ないが希望があったときには支援している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、障子で調整し、時には居間や居室に花を飾っている	老健も含めて敷地は広く、中庭の散歩道や自家菜園等の行き来だけでも十分な運動域となり、気軽に自然も楽しめるようになっている。リビング、廊下には利用者の書道の作品や生花、外出時のスナップ写真等が飾られ、家庭的で和やかな雰囲気となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で過ごせるソファ等 の配置をしている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の設置や道具、写真を持参していただき居室に置いている。	居室は和室、洋室があり、ユニット毎に設備等に違いはあるが、全体的に広く、落ち着いた雰囲気づくりとなっている。寝具や調度品、写真、ソファ、イス、仏壇等、利用者にとって馴染みの物が持ち込まれ、安全かつ居心地良く過ごせるように配置されている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺や場所表示を配置している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係が できている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			